

令和元（2019）年度 吹田市立第二中学校

全国学力・学習状況調査 調査結果の概要



はじめに

平素は本校教育活動にご理解、ご協力を賜り有り難うございます。

さて、本年度4月18日に3年生を対象とした「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」を実施し、9月12日に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、数学・英語に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図って参ります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にして頂きますようお願い致します。

令和元年 11 月
(2019 年)

1 教科に関する調査結果の分析

国語

(1) 調査の概要

今年度より「国語A」（基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題）と「国語B」（基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題）という問題構成を改め、教科として統一された問題での調査となりました。

本校の正答率は、全国値とほぼ同率という結果でした。



(2) 学習指導要領の各領域等における成果と課題

【話すこと・聞くこと】

「話合いの話題や方向を捉えて的確に話す」問題に関しては、できていましたが、「相手にわかりやすく伝わる表現について理解する」問題に関しては、やや課題がありました。

「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ」問題に関しては、無回答率がやや高く、課題がありました。

【書くこと】

「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」問題に関しては、ややできていましたが、「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」問題に関しては、課題がありました。

【読むこと】

「文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えを持つ」問題に関してはできていました。「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」問題に関しては、課題がありました。文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつ」問題に関しては、やや課題がありました。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

「語の一部を省いた表現について、語や文章の中での適切な活用の仕方を理解する」問題では、ややできていましたが、「封筒の書き方を理解して書く」問題では、とてもできていました。

(3) 今後の改善点について

【話すこと・聞くこと】

アクティブラーニングと言われる、「主体的で対話的な深い学び」の獲得が推し進められる中、本校では、班学習を取り入れ、班の中での話し合い活動を中心に、授業展開を行ってきた成果が出てきています。それが、「話合いの話題や方向を捉えて的確に話す」問題で高い正答率が出た結果だと考えられます。

しかし、「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」問題や「相手にわかりやすく伝わる表現について理解する」面で課題が見られます。今後は、伝えたい状況をわかりやすく説明することについて話し合ったり、相手の意見を踏まえながら話すことや、相手の発言を聞いて自分の考えをまとめることに取り組んでいきたいと思っております。



【書くこと】

新聞の購読率は社会全体の傾向として減少し、Web 上では読み手が好みによって選別するため、より読みやすく、わかりやすい、インパクトのある文章にしか目を通さないという現状も一般的には指摘されています。そのため、論説文、説明文を読む機会が減少してきています。本校では、朝読書の時間を設け、少しでも文章を読む機会を増やしていますが、多くは小説や物語の文章に対峙することが多くなっているのが現状です。モデルとする文章の数が少なければ、論理的な文章を書くことは困難になります。できるだけ、国語の授業や、その他の時間を使い、論説文・説明文を読む機会を増やすことを念頭に置き指導に生かしたいと思います。

【読むこと】

読むことについては、「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ」力は概ね身につけていると言えます。一方で「文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えを持つ」ことや「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」ことに難しさを感じている生徒が多いと考えられます。朝読書で小説や物語に接することはできてきたようですが、論説文や説明文を読む機会が少ないことが、課題として浮き彫りになりました。この点の克服に注力していきます。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

他者に手紙を書き、封筒に入れて投函するという経験が日常生活において少なくなってきた中であって、今年度はこの項目における正答率は非常に高くなりました。メールや SNS が急速に発展し、今後も情報発信や情報伝達手段としてその活用領域が広がりつつあることが予想されますが、そのような状況にありながらも、実際に手紙を書いて投函する等、実生活の場面で学習を活用することが肝要であると思います。

数 学

(1) 調査の概要

今年度より「数学A」（基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題）と「数学B」（基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題）の枠がなくなり、統一された調査となりました。

本校正答率は、全国値とほぼ同率という結果でした。



(2) 学習指導要領の各領域における結果と課題

【数と式】

「四則計算」については全国値をやや上回る結果でした。一方「連立二元一次方程式を解く」問題については正答率が低く全国値を大きく下回る結果でした。

「与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉える」問題や「総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈する」問題は全国値を大きく上回りました。

「事柄が成り立つ理由を説明することができる」問題では、正答率は全国値と変わらなかったものの、全国値より無解答率がやや高かったです。

【図形】

「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」という問題は正答率がやや高く、全国値をやや上回りました。

「反比例の意味を理解している」という問題については、全国値を大きく下回りました。

「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明することができる」という問題についても全国値を大きく下回りました。また、この問題では無解答率も全国値よりやや高くなっています。

【関数】

「反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる」という問題は全国値を大きく下回りました。

「グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる」という問題については、全国値をやや上回りました。

「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」という問題

は、正答率は全国値と変わらなかったものの、無解答率がやや低く、生徒が問題に対して前向きな姿勢が見えました。

【資料の活用】

「簡単な場合について、確立を求めることができる」という問題は全国値を大きく下回りました。

「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」という問題は全国値をやや上回りました。

「問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる」という問題は全国値をやや上回りました。

以上、4項目の分析より、

○数学的な技能、具体的には方程式や反比例、確率など基本的な知識を持つ。

○関数や資料の活用。

二点について課題が見られます。



(3) 今後の改善点について

基礎的・基本的な知識・技能を定着させるには、数学用語や数学的概念をしっかりと押さえた上で、習った計算や数学的な考え方を連続して、くり返し学習する反復学習が大切です。

授業の中でも教師が意図して、演習の時間を設けておりますが、圧倒的に時間は不足します。家庭での学習を大切にしてください。

理由を説明したり、証明したりする場合や資料を読み解くには、解き方だけを覚えるというのではなく、身につけた計算力、考え方を実生活や身近な場面と関連づけて捉えられるようにすることが必要となります。ただ計算をするのではなく、日常生活の中で関連付けて数学を考えると、より実感がわき、理解も深くなるはずです。

【指導改善のポイント】

▽数学用語や数学的概念を理解できるように指導していきます。

▽数量の関係を式を用いて捉え、活用できるようにしていきます。

▽数量の関係や法則を文字式で表すことや、文字式から関係を読み取る活動を重視します。

▽数量関係を表・式・グラフを用いて捉え、関数関係を見出し、表現する活動を重視します。

▽図形の性質に着目し、数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明する活動を重視します。

数学に限らず全教育活動の中で、主体的・対話的で深い学びとなるような授業や活動を今後も展開していきます。

英語

(1) 調査の概要

本校正答率は、全国値をやや上回る結果でした。



(2) 学習指導要領の各領域等における成果と課題

【聞くこと】

「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる」問題については、全国値をやや下回りました。また、「まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる」問題についても、やや下回りました。

【読むこと】

「読むこと」としては、全国値をやや上回っていました。「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる」問題については全国値をかなり下回りました。「日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる」問題については全国値をかなり上回りました。

「まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる」問題については、全国値を大きく上回りました。さらに、「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる」問題についても、全国値を大きく上回りました。また、この問題では、無回答率も全国値と比べ、かなり低く、生徒の問題に向かう、前向きな姿勢が見られました。

【書くこと】

「書くこと」に関しては、全国値をかなり大きく上回っていました。特に「一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる」問題、「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる」問題、「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」問題は全国値を大きく上回りました。また、与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる」問題では全国値を大きく上回り、また、無回答率も全国値を大きく下回りました。



【話すこと】

参考なので、分析はありません。

(3) 今後の改善点について

- 日本語と違い、英語に接することが難しいため、聞く・話す・読む・書くを繰り返し、日常的に行うことが大切です。
- まとまりのある文章に対して苦手意識があるようです。問題集などでは、重要文等で一文などをピックアップして学習することが多いと思いますが、長文全体を理解する学習も行ってみましょう。
- 英語だからといっても、文意の学習は不可欠です。説明文や論説文など、英語でも、国語でも多くの文章に触れることが大切です。

【指導改善のポイント】

- ▽現在でも1時間の中で、聞く・話す・読む・書くを効率的に配置して授業を行っておりますが、より一層充実を図ります。
- ▽今後も主体的・対話的な深い学びを通じて、目の前で起きている現象・事象として捉えさせて、生徒自らが実体験を通じて興味・関心を持つ、探求する姿勢を育てます。

特に英語は主体的・対話的な深い学びとなるような授業展開を今後も継続して行っていきます。

2 生活習慣や学習環境などに関する調査の傾向

～生徒質問用紙からの分析～

【生活習慣】

朝食を食べている生徒の割合は、全国値をやや下回りました。毎日、同じくらいの時刻に寝ている生徒の割合は、全国値を上回りました。また、毎日、同じくらいの時刻に起きている生徒の割合は、全国値をやや上回りました。

睡眠時間の確保や、ゆとりのある生活習慣づくりをご家庭で進めていただいていることが伺えます。本校では遅刻者もほとんどいません。規則正しい生活のリズムを作ることが学習にもつながります。本当にありがとうございます。

【自己肯定感・自尊感情】

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度より下回り、全国値を下回りました。「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」の質問に対して肯定的な回答した生徒の割合は全国値を上回りました。また、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合も、全国値を上回りました。今後もキャリア教育や様々な課題を自ら解決していく体験を積み重ね、自らの人生をより良く生きようとする姿勢を身につけた、社会に必要とされる人材の育成に取り組んでいきます。

【家庭学習】

学校の授業時間以外に、普段（月曜～金曜日）1日当たり2時間以上学習する生徒の割合は、全国値を上回りました。反対に、全くしない生徒の割合は、全国値を大きく上回りました。この傾向は、ここ数年変化がなく、家庭学習のする人とならない人の二極化が定着してきています。

「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値を大きく下回りました。また、あまりしていない、全くしていない生徒の割合は、全国値を大きく上回っていました。

家庭学習は習慣です。歯磨きや入浴、朝ごはんなどと同様、毎日の生活の中に組み込んでいくこと

が必要です。学校でも、家庭学習の習慣づけのために家庭学習ノートを進めていますが、ご家庭でもご理解をいただき、習慣化できるように後押しをお願いします。



【家庭 地域社会】

「家の人と学校での出来事について話をしますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値を上回りました。また、「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値をやや下回ったものの、「地域や社会で起こっている問題や出来事を良くするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値をやや上回りました。本校の生徒たちは地域への関心や関わりを持つ機会への意識が高いと言えます。

【授業・規範意識】

「学校の規則を守っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値をやや下回りました。今後も、規範意識を高めるために、道徳の授業を年間計画に基づいて実施するとともに、授業規律や生活規律を身につけさせる指導を継続していきます。「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値をやや下回りました。また、授業では、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合も、全国値を下回りました。「主体的で対話的な深い学びの実現」に向けて、今後も取り組みを進めていきます。

今年度の学校スローガンは《学び合う・支え合う・思いやりのある集団 ～伝える力を伸ばそう～》です。今回の調査結果からは全国値を下回る部分もありますが、本校生徒の「学び合う姿勢」や、「支え合う姿」は確実に、様々な場面で見られるようになってきました。思いやりのある集団づくりが進んでいることを示す一つだと思います。その力は年々伸びています。

3 おわりに

本調査の結果を踏まえ、学習については基礎的基本的な知識と技能の習得、それを活用していく確かな学力を育むためには、日々の授業、家庭での学習に意欲的に取り組む姿勢が不可欠です。

学校においては、授業規律・生活規律を確立した上で、学ぶ意欲を喚起する授業づくりや、ICTを活用したわかる授業の創造、少人数授業などの個に応じた取組みの充実、小学校との連携のもと系統的な小中一貫教育の推進など、引き続き多様な指導法の工夫改善に取り組んでまいります。自分の考えたこと、思ったことをお互いに交流する活動を通して、主体的、対話的で深い学びの実現をめざします。

また、学習内容の修得には、学校での反復学習に加えて、家庭での学習習慣の定着が大きく影響してきます。学校と家庭が連携し、生徒の自学自習力を高めることが、生徒の学力向上につながります。今後ご協力いただきますようお願い致します。

